



中国で流行する日本アニメ映画

富山県大連事務所
副所長 川田 拓磨
(北陸銀行より出向)

1. はじめに

中国では現在、日本のアニメ映画『すずめの戸締まり(中国語名『鈴芽之旅(すずめの旅)』、以下「すずめ)』と『THE FIRST SLAM DUNK(中国語名『灌籃高手(ダンクの名人)』、以下「スラムダンク)』が大ヒット公開中です。2023年5月15日時点の興行収入は、「すずめ」が約8億元(約156億円。1元=19.5円換算、以下同)、「スラムダンク」が約6.3億元(約123億円)です。「すずめ」は中国における日本映画の興行収入歴代1位となり、日本での興行収入(約146億円)も超えています。「スラムダンク」も前売り券が1億元以上売れ、前売り券販売数の海外アニメ映画歴代1位の記録です。

ちなみに中国では、その映画の人気や座席の質、時期などでチケットの金額が日々大きく変動します。私はどちらの作品も鑑賞しましたが、「スラムダンク」は上映初週の週末に、最新設備の映画館で鑑賞して44元(約850円)でした。「すずめ」は上映開始2か月後に、古い映画館で鑑賞して23元(約450円)でした。バラツキは有るものの、中国は日本と比べても鑑賞料金が安く、興行収入だけでなく観客動員数でも日本を超えているのは確実です。

それぞれの作品のヒットの理由について推測すると、「すずめ」は新海誠監督の中国での絶大な人気が要因と考えられます。新海監督の過去2作を参照すると、「君の名は」が5.8億元(中国での日本映画興行収入ランキング歴代3位)、「天気の子」が2.9億元(同6位)といずれも多くの人々に受け入れられています。新海監督は今回の中国での上映開始に合わせて訪中し、北京大学でのトークイベントも行われました。



【深センの商業施設にて
スラムダンクのイベントコーナー】



【大連の映画館
スラムダンクの記念撮影スペース】

「スラムダンク」は90年代の中国でのバスケットボール世代からの人気に加え、SNS等での情報拡散により、新たに若者のファン層も獲得しています。こちらも、北京大学の体育館を貸し切ったの先行上映イベントが行われました。

今回はアニメ映画を中心に、コロナ禍以前の2018年から直近の2023年までの日本映画の活況についてご紹介いたします。

2. 中国での映画上映ルール

中国で上映される全ての映画は、所管する行政機関である「国家電影管理局」の許認可を事前に取得する必要が有ります。具体的な規制内容は不明確ですが、「中国国民の倫理観を乱す」描写はカットや修正が求められる他、上映が禁止される場合も有ります。近年では2022年上映の「スパイダーマン」映画最新作で、自由の女神が映るシーンのカットが求められました。米国の愛国心を想起するからだと考えられています。製作者側はカットを拒否したため、大々的に広告していたにも関わらず、この映画は中国では上映されませんでした。

外国映画を輸入できるのは許可された国営企業1社のみで、配給出来るのも2社のみに限られます。また輸入映画の場合、「分帳」と呼ばれる「興行収入を一定の割合で利益配分する方式(主にハリウッド映画等の高い興行収入が見込める映画)」と、「批片」と呼ばれる「版權買い切りの方式(近年は主に日本のアニメ映画等)」が有ります。年間の輸入映画の上映数も方式ごとに上限が定められるなど、他にも多くの規制が有ります。

3. 日本映画の上映数推移 (2018年以降)

【図1】 日本映画上映数推移



※JETRO上海事務所「中国の映画/テレビに関する市場調査2022年度更新版」を元に作成。以下同。
※2023年データは中国映画サイト「猫眼 專業版」より筆者カウント。

【図1】 のとおり、コロナ禍前の2019年には過去最多の24作品(うち実写7作、アニメ17作)が上映されました。その後のコロナ禍で上映本数は大きく減少したものの、2023年には4月末時点で既に6作品が上映されるなど復調の兆しを見せています。上述のとおり中国では、

輸入映画の上映数が制限されています（年間120作前後とされています）。その中でも日本映画は、輸入映画総数の10%前後を占めています。

4. 興行収入推移と各年の日本映画興行収入1位作品について（2018年以降）

【図2】 各年の中国における興行収入1位の日本映画

	中国興行収入1位の日本映画	日本の興行収入 (億円)	中国の興行収入 (億円換算) ^{※2}
2018年	ドラえもん のび太の宝島(アニメ)	53.7	33.8
2019年	千と千尋の神隠し(アニメ)	316.8	76.1
2020年	デジモンアドベンチャー LAST EVOLUTION絆(アニメ)	2.4	19.8 ^{※1}
2021年	STAND BY MEドラえもん2(アニメ)	27.8	50.0 ^{※1}
2022年	名探偵コナン ハロウィンの花嫁(アニメ)	97.8	34.0
2023年	すずめの戸締まり(アニメ)	144.8	156.0 ^{※1}

※1 色付きの作品は、中国での興行収入が日本を上回ったもの

※2 各年末の中国銀行為替仲値レートで換算

【図2】の通り、近年は中国での日本映画の興行収入1位がいずれもアニメ映画であることが分かります。注目すべき点として、コロナ禍の2020年、2021年にはいずれも、日本での興行収入を中国が大きく上回っています。「デジモン」、「ドラえもん」はいずれも中国で根強い人気のあるコンテンツであり、その映画版ということでコロナ禍でも一定の支持を得ました。コロナ禍で海外旅行へ行けなかった事情も有り、日本の風景を描いたこれらの作品に注目が集まったものと考えられます。

【図3】 日本映画興行収入推移



【図3】の興行収入の推移を見ると、2023年は「すずめ」、「スラムダンク」効果で、既に2019年に迫る勢いとなっています。「名探偵コナン」、「ドラえもん」など中国で人気の有る日本アニメ映画は毎年最新作が上映され、中国国内でも安定した結果を残しています。なお、アニメ映画であれば無条件に全てがヒットするわけではありません。2023年に上映された「ドラゴンボール」は中国において漫画人気が高いものの、アニメ版の人気はいま一步とのことで、興行収入1,100万元(約2億円)にとどまっています。

5. おわりに

中国の映画館の状況として、いわゆる「映画泥棒」が横行しています。映画館に行く
と必ず、スマートフォンで映像を盗撮している人を見かけます。特に「スラムダンク」
では作中の名場面を撮影してSNS等で拡散する迷惑行為が横行しており、映画の公式アカ
ウントでも注意喚起が行われました。中国における知的財産への意識は、まだまだ低い
です。

日本のアニメ人気絶大であることを嬉しく思う一方、実写邦画はなかなか中国での
興行収入が多くないのが実情です。今後更に中国国内で受け入れられることを祈ってい
ます。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成
時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp